

自己免疫性脳炎における抗神経表面抗体の診断および長期予後に関する 多施設共同研究について

青森県立中央病院 脳神経内科では、日本大学医学部附属板橋病院 脳神経内科が主導する「自己免疫性脳炎における抗神経表面抗体の診断および長期予後に関する多施設共同研究」に、研究協力機関として参加しています。

自己免疫性脳炎は、意識障害、けいれん、精神症状、認知機能障害、不随意運動など、さまざまな神経症状を呈する疾患です。近年、NMDAR 抗体や LGI1 抗体などの抗神経表面抗体が病態に関与することが明らかになってきましたが、抗体の種類と臨床症状、治療反応性、長期的な回復や後遺症との関係については、まだ十分に解明されていません。

本研究では、診療の過程で実施された血液検査や髄液検査、MRI や脳波などの検査結果、および症状の経過、治療内容、機能予後（modified Rankin Scale や CASE スコア）などの診療情報を用いて、自己免疫性脳炎の診断精度向上と長期予後の解明を目的としています。

本研究の対象となるのは、自己免疫性脳炎が考えられ、抗神経表面抗体検査の必要性があると主治医が判断した患者さんとなります。研究に使用する情報は、年齢、性別、発症時の症状、検査所見、治療内容、経過などであり、氏名や生年月日など、個人が特定される情報は一切含まれません。青森県立中央病院は研究協力機関として本研究に参加しており、本院では新たな検査や追加の治療を行うことはありません。通常の診療で得られた情報を用いて研究を行います。本研究は、関係する倫理審査委員会の承認を受けて実施されています。本研究は情報公開（オプトアウト）方式で実施されます。研究への参加を希望されない場合は、下記のお問い合わせ先までお申し出ください。その場合でも、診療内容に不利益が生じることは一切ありません。本研究の実施期間は、最長で 2028 年 3 月 31 日までを予定しています。研究成果は、個人が特定されない形で、学会や医学論文などを通じて公表され、今後の診断や治療の発展に役立てられる予定です。

本研究に関してご不明な点やご質問がございましたら、下記までご遠慮なくお問い合わせください。

主研究者・研究責任者
青森県立中央病院 脳神経内科 上野達哉

電話番号 017-726-8111